

ひまわり

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

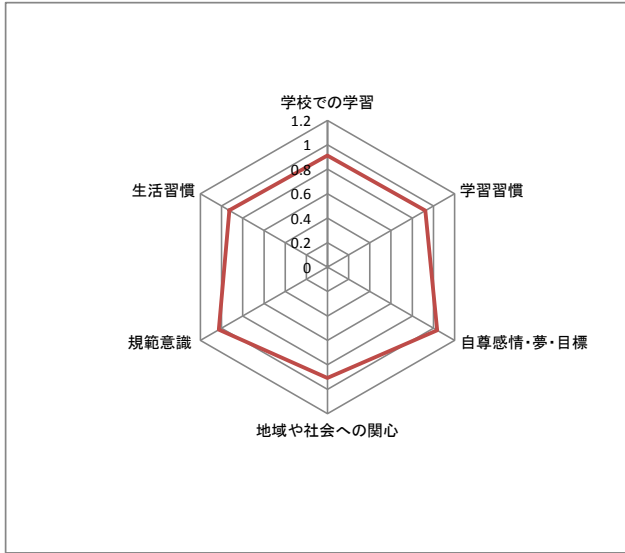
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には、全国平均正答率を約4ポイント下回っていた。 相手や目的に応じて書く力を問う問題に課題があり、書くことを習慣化する必要がある。・文中の主語と述語との関係などに注意して、書いた文章を読み直して適切なものを選択する問題は正答率が高かった。 日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、適切なものを選択する問題は正答率が高かった。 相手や場面に応じて使う適切な敬語を選択する問題は正答率が低かった。 文の中で使う正しい漢字を既習した漢字の中から想起して適切なものを選択する問題は正答率が低かった。 	下回っている
国語B	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には、全国平均正答率を約3ポイント下回っていたが、内容の中心を明確にして書いたり、自分の考えを明確にしながら読んだりする力はほぼ同程度であった。 目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く力を身に付ける取組が必要である。 話合いの参加者として、質問の意図を捉えて適切なものを選択する問題は正答率が高かった。 目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考えて適切なものを選択する問題は正答率が低かった。 推薦理由を明確に表現するための工夫について適切なものを選択する問題は正答率が低かった。 	下回っている
算数A	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には、全国平均正答率を約7ポイント下回っていたが、数と計算について、文章から数量の関係や意味を読み取って関係図に表す問題の正答率が特に低かった。 無解答率は低かった。 円周率を求める式として正しいものを選択する問題は正答率がかなり高かった。 答えが$12 \div 0.8$の式で求められる問題を正しく選ぶ問題の正答率がかなり低かった。 1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を数直線上に表す問題の正答率がやや低かった。 円の直径の長さが2倍になったとき、円周の長さが何倍になるか適切なものを選択する問題の正答率がやや低かった。 	下回っている
算数B	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には、全国平均正答率を約7ポイント下回っていた。 数量関係や図形に関する問題に課題があり、グラフや表、数直線などを活用して説明できる力をつける必要がある。 立式や求め方について、自分の考え方を整理して記述することを習慣化する必要がある。 かけ算九九の表で横に並んでいる七つの数について、示された表現方法を適用して説明を書く問題は正答率が高かった。 合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見いだす問題は正答率がかなり低かった。 示された考え方を解釈し、結果を表に整理して条件に合う時間を判断する問題は正答率がやや低かった。 	下回っている
理科	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には、全国平均正答率を約2ポイント下回っていたが、無解答は全く無かった。 4年で学習した生命に関する問題と5年で学習した粒子に関する問題はどちらも4問中3問が全国平均正答率を上回っていた。 4年で学習したエネルギーに関する問題は4問全てが全国平均正答率を下回っていた。 粒子に関する問題では濾過の正しい操作方法、食塩を水に溶かしても全体の重さは変わらないことの正答率が高かった。 生命に関する問題では腕を曲げることができる骨と骨のつなぎ目を表す言葉(関節)の正答率が高かった。 エネルギーに関する問題では回路を流れる電流の向きと大きさを予想して実験結果を選択する問題の正答率がやや低かった。 地球に関する問題では流水による土地の浸食について予想が正しい場合の実験結果を選択する問題の正答率がやや低かった。 	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・「自分には、よいところがある」「先生が自分のよいところを認めてくれている」と思っている児童が全国を上回った。また「将来の夢や目標を持っている」と答えた児童も全国を上回った。自尊感情が高いのが特徴である。
- ・「学校のきまりを守っている」は全国をやや上回った。
- ・朝食を毎日食べている児童が全国をやや下回っていた。
- ・「家の人と学校での出来事について話をする」は全国をやや上回っていた。
- ・学習塾で勉強をしている児童が全国を上回った一方で、家で計画を立てて勉強をする、学校の宿題をする、授業の予習・復習をすると答えた児童はどれも全国を下回っていた。読書の時間も全国を少し下回っていた。
- ・新聞を読んでいる児童は全国を下回ったが、テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ると答えた児童は全国をやや上回った。
- ・普段(月曜日から金曜日)、放課後に家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりすると答えた児童は全国を上回った。
- ・「算数の勉強は好き」と答えた児童は全国をやや下回ったが、「理科の勉強は好き」と答えた児童は全国をやや上回った。また、どちらの教科でも「その勉強は大切だ」「将来、社会に出たときに役に立つと思う」と答えた児童は全国を上回った。
- ・「算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたい」「理科の授業で、自分の考えを周りの人に説明したり、発表したりしている」と答えた児童は全国をかなり下回った。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・国語科の「話すこと・聞くこと」領域は、4問中3問が全国平均正答率を下回っていた。本年度も国語科教育の「話すこと・聞くこと」単元を通して研究を進める。具体的には単元構成の工夫をしたり、子どもたちの思考を視覚化する授業展開を工夫したりする。また、第1学年から第6学年までを系統的に捉え、各学年の思考を視覚化する授業展開を工夫できるようにする。そのために学力向上推進担当教員と連携しながら、日々の授業の質を向上させる。年間3回、推進担当教員のモデル授業を職員で研修したり、9月19日と11月7日に授業を伴った主題研究を設定し、互いの考えや立場などを尊重しながら協力し合って話し合える授業の在り方を全職員で研修する。
- ・言語環境の充実に努め、言葉を豊かに活用しながら生活する子どもたちの育成を図る。
- ・月曜日は音読、火曜日は計算、木曜日は国語、金曜日は応用というように、朝の学習で取り組む内容を学校全体で統一し、確実に実施する。特に計算や国語の時間では、基礎学力の定着を図る。また、音読は全校放送で一斉音読に取り組む。音読の楽しさを味わわせるとともに、みんなで一つの目標に向かって取り組む楽しさも味わわせたい。終業式などで各学年が取組の成果を発表する「音読発表会」を設定し、子どもたちが互いに認め合えるようにしたい。また、音読がすらすらと暗唱できるようにになった子どもには、合格シールで表彰するようにしたい。
- ・読書への関心を深めるとともに、落ち着いた気持ちで午後の授業に取り組めるように、毎日の掃除が終わり次第、5校時が始まるまでの5分間を子どもたちが着席して読書に取り組む「読書タイム」として設定する。また2学期には読書への関心を更に深めるために、図書委員会を中心に校内読書週間を設定する。読書週間中は朝の学習を全校10分間読書としたり、学校図書館職員によるブックトーク、図書委員による絵本の読み聞かせや本の紹介の時間を設定する。更に、希望者には読書感想画にも取り組ませ、読書意欲を高めたい。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・中学校区全体が家庭学習に取り組めるために、大里東小学校と戸ノ上中学校と連携して、「スタディーウィーク」を年間5回設定する。(3回は実施済み:第4回目11/15~11/21, 第5回目2/15~2/21の予定)取組の様子や結果は学校便りで配信し、保護者への家庭学習に対する関心を高めていただく。
- ・毎朝8時26分から「萩小ストレッチタイム」とし、保健委員会作成のCDを全校放送する。静かな音楽とともにストレッチをすることで体をほぐし、姿勢保持を意識させるようにする。体育委員会とも協力し、児童同士の気付きや声かけから生活態度を見直すきっかけにする。
- ・長期の休みに入る前には、「萩ヶ丘小学校のきまり」を配布し、長期休暇期間中の生活の仕方を共通理解できるようにする。